

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も実験を中心とした授業を実施できた。
- ・学年が上がると共に、主体的に取り組む姿勢ができてきた。
- ・タブレットを活用した小テストなどを頻繁に行うことで生徒の理解度を把握した。
- ・理解度の弱い単元の復習の機会を増やした。
- ・実験の準備、目的の確認、結果の整理、考察という流れを定着させた。

(2) 課題

- ・日常生活と学習内容をつなげて科学的に思考することができていない生徒が多い。
- ・実験結果のグラフ化や数式処理に苦手意識を持つ生徒が多く、課題となっている。
- ・知識・理解の定着は少しずつ図れているが、それを生かして考察し、自らの言葉で表現することが課題である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値を下回った。 物質・エネルギーの領域、生命・地球の領域、共に目標値に達していない。全ての領域で課題が見られる。		
第2学年	目標値を大きく下回った。物質・エネルギーの領域、生命・地球の領域、共に目標値に達していない。全ての領域で課題が見られる。	目標値を下回った。 物質・エネルギー領域、生命・地球の領域、共に目標値に達していない。特に、生命・地球領域に課題が見られる。	
第3学年	目標値を上回った。 基礎と活用共に目標値を越えている。また、粒子と生命領域では目標値を大きく超えている。	目標値を下回った。 全体的にわずかに目標値に達していない。地球領域において、特に課題が見られる。	目標値を下回った。 物質・エネルギー領域は目標値を上回ったが、生命・地球の領域において課題が見られる。

(2) 分析 (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を 10.3 ポイント下回った。 基礎・基本を身に付けられるよう、小テストや確認を適時行っていく。	目標値を 8.8 ポイント下回った。 実験や観察を通じて、筋道を立てて考える力を身につけていく。	予想→実験観察→考察という流れを基本とした授業計画を作成し、意欲・関心を高めていく。
第2学年	目標値を 12.2 ポイント下回った。基礎基本を身につけられるよう、小テスト等で知識を定着させる機会をつくり、授業のふり返りも行っていく。	目標値を 9.7 ポイント下回った。図の理解や、計算、記述を行う問題に課題がある。実験観察での考察、数値から考え理解する力をつけていく。	興味を持って取り組めるよう、ICTを活用し授業の改善に努めていく。
第3学年	目標値を 4.2 ポイント上回った。基礎・基本を身に付けるために、各種小テストを適時行い、力を伸ばしていく。	目標値を 7.2 ポイント上回った。「抵抗と電力の関係」や「電流と磁界(変圧器)」に課題があるため、演習やふり返りを行い、理解を深めていく。	各単元を振り返り、自己の学習を調整したりする姿勢がみられた。

3 授業改善のポイント (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	頻度高く Foams を用いた小テストを行い、個別に力を伸ばせるよう取り組んでいく。結論や分かったことを書く時間を確保する。	課題解決型の授業計画を設定し、実験の計画や、結果の予想と考察など適切に指導していく。	タブレットやデジタル教材を用いて、具体的に現象を捉え、考えられるように支援していく。また、学び合い活動などを充実していく。
第2学年	Foams を用いた小テストで知識の定着を図る。また、授業のふり返りを行い授業内容の定着を行う。	デジタル教材を用いて現象の理解を深め、抽象的な内容を理解できるように支援していく。	既習事項を活用した更なる調べ学習を行う。また、タブレットを用いて達成率を自認させ、改善点を分かりやすく提示する。
第3学年	小テストや Foams、用語テストなどの問題を解く機会を増やし、知識の定着を図る。同時に授業のふり返りを行っていく。	デジタル教材を用いて、想像しにくい事物・現象を分かりやすく提示する。また、既習事項を活用した問題演習にも取り組む。	学習内容が、日常生活においてどの場面で使われ活用されているか、積極的に考える場面をつくり、学び合い場を活用していく。